

高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2010 年 5 月 6 日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	前川盛治(泡瀬干潟を守る連絡会・事務局長) 泡瀬干潟を守る連絡会
連絡先・所属など	〒904-2161 沖縄県沖縄市字古謝1171-3 コーポMK 1階 電話 098-989-0245 携帯 090-5476-6628 メールアドレス:save_awasehigata@yahoo.co.jp HP: http://www.awase.net/
調査研究・研修のテーマ	沖縄島泡瀬干潟の生態系保全と持続可能な利用のための調査研究

2. 調査研究・研修結果の概要

- 1) 西防波堤北西部のヒメマツミドリイシ群落の調査
(アセスでは、生息していることが抜けていたが、私たちの調査で生息が確認され、その後事業者も約3万㎡の生息を確認している。ここは将来埋立に係わる航路として掘削される。私たちは、ここの保全を訴えて、定期的に調査している。)
2005年連絡会調査
2006年から沖縄リーフチェック研究会と合同調査
2007年6月、産卵(放卵)確認
2008年6月、再度の産卵(放卵)確認
2008年12月リーフチェック、2009年2月リーフチェック、2009年6月リーフチェック・産卵チェック、2009年9月リーフチェック、2009年12月リーフチェック、2010年3月28日リーフチェック(荒天のため、5月17日に延期)
- 2) 東防波堤、西防波堤東側の北のサンゴ移植地調査
(アセスでは埋立地のサンゴは、被度10%未満で保全の対象ではないとしていた。2005年私たちの調査で、リュウキュウキッカサンゴ、スギノキミドリイシなどが、大きな群落を造っていることが確認され、事業者に保全を要請した。事業者はその後調査し、約900㎡のサンゴ群落を確認している。しかしそこは保全の対象ではないとしていた。ところが、2008年10月~11月には沖縄市が中心になって、2009年6月には民間NGO団体が中心になって、埋立地のサンゴの一部を移植した。事業者が保全すべきなのにその責任を放棄して、移植させた問題点もあり、また移植されたサンゴが生存できるかの追跡調査も必要である。)
2008年12月、移植地のサンゴ調査
2009年2月、移植地のサンゴ調査、2009年6月移植地のサンゴ調査、2009年9月移植地のサンゴ調査
2009年12月、リーフチェック、2010年3月28日、リーフチェック(荒天のため、5月17日に延期)
- 3) 大型海草の手植え移植地の調査
(泡瀬埋立区域内には、大型海草被度50%以上の生息地が25haもあった。埋立によってこの海草藻場が失われることから、事業者はアセスで「移植して保全する」としていた。そして、事業者は事業を始める前に「機械移植実験」をした。それが失敗し、困った事業者は、手植え移植実験もしてそれは良好であるとして、海上工事を始める時、手植え移植をして、埋立を開始した。私たちは「移植では海草は保全できない」ことを主張し、その調査を継続し、アセスの杜撰さを明らかにしている。)

2009年以前、海草藻類専門部会の時点で調査

2009年8月10日、海草の専門家・金本自由生氏と手植え移植地の調査

2010年2月24日、海藻草類専門部会での意見

4) 米軍泡瀬通信施設前の海草藻場調査

(埋立工事が進行する中で、沖合いの砂が沿岸部に押し寄せ、海草藻場を覆い、海草藻場の劣化を招いている。その実態を調査している。)

2009年以前、同海域の写真撮影

2009年以降、同じ地点での海草藻場の写真撮影

5) 砂州変化

(西防波堤の西側にある「フジイロ砂州」と、泡瀬総合運動公園オートキャンプ場先にある砂州が工事前と現在では、大きく影響を受けている。)

2009年以前(2002,2003年頃)の写真

2009年以降、同じ地点での写真を以前の写真と比較し、分析する。

6) 貝類の調査

埋立工事による影響を調査する。

2009年7月6日～8日、貝の専門家・山下博由氏との合同調査

2010年4月3日、山下博由氏の干潟貝類調査

7) 沖縄市の土地利用計画見直しに対する、調査研究、問題点追及のチラシ発行

2009年10月15日の控訴審(福岡高裁那覇支部)で「埋立事業に経済的合理性はない、公金を支出するな」の判決が言い渡され確定したのに、沖縄市は、1区の土地利用計画の見直しを進め、2009年12月、市民部会案、専門部会案を決定、そして2010年3月3日に専門部会最終案を決定した。沖縄市はその案をもとに、沖縄市案を策定し、国(国交相)に提出しようとしている、私たちは、沖縄市の土地利用計画見直しの問題点を整理し、市民向けにチラシ(宣伝紙)を作成し、配布した。

3. 調査研究・研修の経過

2009年4月	干潟を守る日・2009IN泡瀬干潟(泡瀬干潟観察・イベント)
6月	民間NPO法人・コーラル沖縄、埋立地のサンゴを東防波堤付近に移植
6月	移植地のサンゴ調査(船)
6月	ヒメマツミドリイシの産卵調査(船)
6月	埋立地のサンゴ産卵確認
7月	貝専門家・山下博由さんと貝類調査(船)
7月	司法修習生、夏の修習祭(京都)で講演
8月	海草専門家・金本自由生さんと移植海草調査(船)
9月	サンゴリーフチェック、ヒメマツミドリイシ・移植サンゴ(船)
10月	控訴審に期待する(新聞論壇、沖縄タイムス、琉球新報)
10月	高教組那覇支部教研集会で記念講演
10月	泡瀬干潟裁判(控訴審)判決
10月	生物多様性COP10(名古屋)で報告
10月	長良川救済DAYで報告
12月	サンゴリーフチェック(ヒメマツミドリイシ、移植サンゴ)(船)
12月	アーサ(ヒトエグサ)泥の影響対照実験
12月	沖縄市専門部会、部会案を2案に決定
2010年2月11日	世界湿地デー、泡瀬干潟でのイベント
2月12日	民主党県連への1区工事区域の調査、再要請
2月14日	ここが変だよ!沖縄市土地利用計画見直し?! 作成・配布
2月24日	海藻草類専門部会(前川盛治(泡瀬干潟を守る連絡会・事務局長)参加
2月28日	泡瀬干潟シンポジウム(沖縄市、中頭教育会館)日本共産党沖縄県委員会

3月3日	沖縄市、専門部会最終案を決定（スポーツコンベンション案）
3月9日	沖縄タイムス、論壇投稿、沖縄市の土地利用計画の問題点
3月20日	沖縄弁護士会、泡瀬干潟シンポジウム（那覇、八汐壮）
3月21日	泡瀬干潟を守る連絡会、泡瀬干潟シンポジウム（沖縄市、かりゆし園）
3月22日	干潟を守る日、救え泡瀬干潟、干潟観察・カヌー遊び・ミニコンサート
3月27日	4党と東門美津子氏、市長選挙の「政策協定」（合理性がないときは、事業を推進しません）
3月28日	日韓湿地フォーラム（東京、桑江直哉氏参加）、サンゴリーフチェック延期
3月30日	泡瀬干潟を守る連絡会・幹事会、東門美津子氏の支援決定
4月3日	山下博由氏、貝類調査
3月～4月	アーサ（ヒトエグサ）の生息状況調査
3月～4月	埋立工事後背地の海草藻場調査
4月5日～9日	沖縄市役所ロビー展（泡瀬干潟、土地利用計画の問題点）
4月10日	諫早シンポ（事務局次長・屋良朝敏氏参加）
4月18日	東京アースデイ出展（東京、代々木公園）、沖縄市長選告示
4月25日	沖縄市長選挙投開票、東門美津子氏当選
5月1日	上関（長島）シンポ、共同代表・小橋川共男氏参加
5月17日	サンゴリーフチェック予定（3月28日実施予定が延期された）

4. 調査研究・研修の成果

ヒメマツミドリイシ、移植サンゴの生息状況を把握できた。
手植え海草移植の問題点を明らかに出来た。
埋立工事後背地の海草藻場の変化を把握できた。
泡瀬干潟でのアーサ（ヒトエグサ）の公示前と工事後の比較調査が出来た。
貝類の生息状況を把握できた。
比屋根湿地改変の問題点を指摘した。
砂州（フジイロ砂州、泡瀬総合運動公園地先の砂州）の変化を把握できた。
沖縄市の土地利用計画の問題点を市民に知らせることが出来た。
沖縄市長選で東門美津子氏を勝利させたことで、埋め立て事業の「中止」、泡瀬干潟を守る展望が開けた。
私たちの問題点の指摘もあって、前原誠司大臣が「沖縄市の土地利用計画見直しに対しては、厳しく対処する、新港地区の港の浚渫と泡瀬干潟埋め立て事業はリンクさせない」の発言（2010年3月23日）を引き出すことができた。

5. 対外的な発表実績

09年10月、高教組那覇支部教研集会で記念講演（前川盛治）
09年9月～10月、泡瀬干潟裁判、控訴審の意義、琉球新報、沖縄タイムス論壇、前川盛治
09年10月、生物多様性COP10 一年前のN G Oシンポジウム（名古屋）で報告
09年10月、長良川救済DAYで報告
09年10月、国（前原誠司国交相・沖縄担当相）への要請（1区の護岸一部撤去、工事中止など）
2010年2月、海藻草類専門部会（前川盛治・泡瀬干潟を守る連絡会・事務局長）参加、提言
2010年2月、泡瀬干潟シンポジウム（沖縄市、中頭教育会館、日本共産党沖縄県委員会主催）での前川盛治報告
2010年3月、泡瀬干潟を守る連絡会、泡瀬干潟シンポジウム（沖縄市、かりゆし園）
2010年3月、琉球新報、沖縄タイムス、論壇投稿（前川盛治）、沖縄市の土地利用計画の問題点
2010年3月、日韓湿地フォーラム（東京、桑江直哉氏参加、発表）

6. 今後の展望

沖縄市の土地利用計画の見直しを中止させ、泡瀬干潟埋め立て事業を中止させる。

前原誠司大臣の1区中断・2区中止を変更させ、「1区2区中止」を表明させる。

「中止」決定後、1区工事区域の護岸の一部を早急に撤去させ、1区工事区域の再生を目指す。

1区工事区域の全体についてどうするかを「泡瀬干潟再生協議会(仮称)」を発足させ、検討し泡瀬干潟再生を図る。

同地域を鳥獣保護区域に指定させ、ラムサール条約登録湿地にさせる運動を進める。

高木基金へのご意見

助成ありがとうございました。非常に使いやすい助成金でした。おかげさまで、様々な活動が出来ました。泡瀬干潟を守る運動前進のために有意義な助成でした。